

(案)

資料No. 3

第3次佐渡ジオパーク基本計画

SADO ISLAND GEOPARK THIRD MASTERPLAN

(2024年度～2033年度)

—— トキが舞う金銀の島
3億年の旅とひとの暮らし ——



佐渡ジオパーク

令和6(2024)年4月
佐渡ジオパーク推進協議会

目次

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 第Ⅰ章 計画の目的・位置付け及び現状と課題 | |
| 1 計画策定の目的 | 2 |
| (1) 目的 | 2 |
| (2) 背景 | 2 |
| (3) 活動 | 3 |
| 2 計画の位置付け、計画の期間とエリア | 3 |
| (1) 期間 | 3 |
| (2) 対象エリア | 3 |
| 3 佐渡ジオパークの現状と課題 | 4 |
| (1) 活動の経緯 | 4 |
| (2) 活動の現状と今後の課題 | 4 |
| 第Ⅱ章 計画の方針と活動計画 | |
| 1 基本的な方針 | 10 |
| 2 活動の3つの柱 | 11 |
| 3 活動計画 | 11 |
| 【3つの柱をもとにした取組】 | 11 |
| (1) 楽しむ | 11 |
| (2) 学ぶ | 12 |
| (3) 守る | 12 |
| 【3つの柱に共通した取組】 | 13 |
| (1) 世界文化遺産・世界農業遺産との関連事業に実施 | 13 |
| (2) SDGs及びローカルSDGsの推進 | 13 |
| (3) 多様な専門員や関係機関との連携 | 14 |
| (4) 戦略的な情報発信 | 14 |
| (5) 再認定審査への対応 | 14 |
| 第Ⅲ章 運営組織 | |
| 1 推進協議会 | 15 |
| 2 運営委員会・部会 | 15 |
| 3 推進体制 | 15 |
| 第Ⅳ章 アクションプラン（実施計画） | 16 |

はじめに

「ジオパーク」は、貴重で美しい地形・地質や景観を保全し、地域の自然、動植物の多様性や人々の暮らしと、そこで育まれてきた歴史や文化とのつながりを学び楽しみ、地域経済の潤いと持続可能な地域づくりを目指すプログラムです。

日本海に浮かぶ最大の島、佐渡島は、多くの景勝地があり、島の大部分が名勝や自然公園に指定され、観光地としての見どころを数多く有しています。佐渡ジオパークは、ジオパークの見どころとなる「サイト」を数多く設定し、そうした特色ある地質・自然・文化等を生かし「保護・保全」「普及・教育」「持続可能な開発」を3つの柱として「地域の活性化」を目指して活動しており、観光旅行者を受け入れながら、地域住民と共に観光地としての佐渡島の魅力を学び楽しむための様々な事業に取り組んでいます。

佐渡島ができるまでの歴史は約3億年にも及び、その成り立ちを「太古の時代」「大陸の時代」「海の時代」「島の時代」の4つの時代に分け、佐渡ジオパークのストーリーを表現しています。この佐渡ジオパークのストーリーにおいて、佐渡の宝である世界文化遺産の候補である「佐渡島の金山」や世界農業遺産（G I A H S）との深い結びつきが示され、大地の変動が島の生物や歴史、文化を紡いできたことを知ることができます。

佐渡ジオパークのテーマは「**トキが舞う金銀の島 3億年の旅とひとの暮らし**」です。トキをシンボルとした多様な生物が生息する豊かな自然に囲まれ、世界に誇れる金銀山とそれにまつわる様々な歴史、文化が育まれてきた佐渡島全体を領域とする佐渡ジオパークは、このテーマを活動の原点として、様々な調査・研究やツーリズムを行い、佐渡特有の魅力を守り、更に深める活動を進めています。

2013年に日本ジオパークに認定され10周年を迎えた佐渡ジオパークでは、これまで地域住民や来訪者に楽しんでもらうことを一番の目的に掲げ活動してきました。佐渡島は自然、動植物、歴史や文化などたくさんの魅力にあふれており、それをジオパークの見どころと結び付け、総合的に伝えていくことが最も重要な取組になります。これからも新たな魅力の開拓や発信をしながら、佐渡の持続可能な発展に寄与していきたいと考えています。

今後は、佐渡ジオパークのテーマに沿って、佐渡の金銀山や世界農業遺産を含め、佐渡の貴重な地形・地質や自然、動植物、歴史、文化などを保全するとともに、それぞれの価値を活用しながら佐渡島特有の魅力を地域住民や来訪者に紹介し、知的好奇心が高まる体験的な活動を展開していきたいと考えます。

また、これまで以上に海の視点を取り入れ、生物多様性、地形と漁業、漂着ごみ等の環境問題を取り上げながら、島特有の「海」の楽しさや「海」から見た佐渡島の魅力を伝えることに力を入れ、島の魅力と課題をクローズアップしていきたいと考えています。

第Ⅰ章 計画の目的・位置付け及び現状と課題

1 計画策定の目的

(1) 目的

- 本計画は、佐渡島の大地や生き物の恵みを大切に、地域住民、調査・研究機関、行政及び民間団体等が協働で保全するとともに、学習や教育への活用と、地域の自然や歴史・文化を巡る特徴ある魅力的なジオツーリズムの取組などのさまざまな活動を通じて、市民の郷土を愛する心を育み、持続可能な地域社会の実現を目指すための総合的な指針として策定します。

(2) 背景

- 20世紀後半の高度経済成長に伴い、都市部への人口集中が加速し、地方では過疎化や少子高齢化が進み、特に山間部や海岸地域では集落の存続が困難な状況です。
佐渡市においても、農林水産業や観光産業等の衰退により就労の場が減少するとともに、若者の流出による人口減少や少子高齢化は大きな課題となっています。
- 近年の異常気象や自然災害、新型コロナウイルス感染症等により、デジタル化が急速に進み、環境への意識や観光スタイルの変化等、新たな社会への対応が求められています。
- 佐渡は、美しい海岸線で囲まれた自然が豊かな島であり、金銀鉱床や砂金山を形成した大地（ジオ）や日本海の誕生の痕跡を目で見て学ぶことのできる公園（パーク）です。南方系・北方系の植物が共存し、生物多様性のシンボル「トキ」や「サドガエル」などの固有種が生息するほか、「サドムカシツチクジラ」などの佐渡の大地の成り立ちを物語る貴重な化石を見ることができます。
- 2013年に日本ジオパークに認定されて以来、ジオパークガイドの育成、子どもたちを含む島民へのジオパーク教育の推進、地域間の交流促進等に取り組んだ結果、市民の認知度や協働の意識の向上が見られるようになりました。
- 佐渡市は、世界文化遺産登録活動（佐渡島の金山）や世界農業遺産（GIAHS）にも取り組んでおり、佐渡ジオパークはこれらと連携しながら活動し総合的な発展につなげていきます。
- 佐渡ジオパークは、日本ジオパークに認定されてから2023年に10年の節目を迎えました。関係者で構成した「佐渡ジオパーク日本認定10周年記念事業実行委員会」は、これまでの10年を振り返り、これからの10年を考える機会となりました。そこでジオパークを軸として以下の3つの取組を進め、後世に伝えていくことが重要との意見が出ました。

- ① 佐渡島の大地と生き物の恵みを大切に、島特有の歴史、文化からなる魅力を深め、地域住民が心豊かに暮らせるよう、持続可能な「島づくり」「人づくり」を進めます。
- ② 佐渡ジオパークは、独自のブランドを確立、普及するとともに、ユネスコが認定する世界文化遺産登録を目指す「佐渡島の金山」や国際認定である世界農業遺産（GIAHS）と関連付け、相乗効果を生み地域が活性化するよう活動します。
- ③ 大地の変動によってもたらされた地質遺産を守り、佐渡市が取り組むローカルSDGsを推進することによって、気候変動や自然災害、海洋ごみなどの社会的な課題への意識を高めることを目指します。

(3) 活動

- 世界には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が認定する「ユネスコ世界ジオパーク」があります。

我が国でも、ジオパークの取組は日本ジオパーク委員会や日本ジオパークネットワークが中心となり急速に広がっています。その活動は地球科学的に意義あるサイトや景観を適切に保全し、サイトの価値を教育に生かし、ジオツーリズムなどを通じて持続的な地域社会経済の発展に貢献しようとする取組です。

- 佐渡ジオパークは、佐渡島の豊かな自然と地域で育まれた歴史や文化の魅力を生かしながら、佐渡ジオパーク推進協議会（以下「協議会」という）を中心に、地域住民、関係機関、行政及び民間団体等が協働でジオパーク活動を推進します。

2 計画の位置付け、計画の期間とエリア

本計画は、ジオパーク活動の体系と計画的行動を示し、「佐渡市総合計画」との整合性に配慮した上で策定します。

計画の期間とエリアは、次のとおりとします。ただし、社会情勢の変化等を踏まえ、状況に応じて計画の見直しを行います。

なお、「佐渡市総合計画」におけるジオパーク推進事業の成果指標を本計画アクションプランの総合的な活動指標に位置付けます。

(1) 期間

本計画の期間は、令和6（2024）年度から令和15（2033）年度までの10年間とし、状況に応じて見直しを行い、調整を図っていきます。

アクションプランの期間は前期の5年間としますが、必要に応じて改正を行います。

(2) 対象エリア

佐渡島全域を対象エリアとします。

3 佐渡ジオパークの現状と課題

(1) 活動の経緯

① 活動の経緯

| | |
|------------------|---|
| 平成 21(2009)年 4月 | 日本ジオパーク連絡協議会に会員として参加 |
| 平成 22(2010)年 4月 | 日本ジオパークネットワーク 準会員 佐渡市教育委員会佐渡学センター内にジオパーク準備室 を設置 |
| 平成 23(2011)年 4月 | 佐渡市教育委員会にジオパーク推進室を設置 |
| 平成 23(2011)年 5月 | 佐渡ジオパーク推進協議会設立 |
| 平成 25(2013)年 9月 | 日本ジオパークネットワーク会員（日本認定） |
| 平成 29(2017)年 11月 | 日本ジオパーク再認定現地審査 |
| 平成 29(2017)年 12月 | 日本ジオパーク条件付き再認定 |
| 令和 元 (2019)年 10月 | 日本ジオパーク再認定現地審査 |
| 令和 元 (2019)年 12月 | 日本ジオパーク再認定 |
| 令和 5 (2023)年 7月 | 日本ジオパーク認定 10 周年記念事業開催 |
| 令和 5 (2023)年 11月 | 日本ジオパーク再認定現地調査 |
| 令和 5 (2023)年 12月 | 日本ジオパーク条件付き再認定 |

(2) 活動の現状と今後の課題

① 保護・保全

<現状>

● サイトの再設定

2023 年 3 月に「サイト設定総合計画」を改定し、ジオサイト・文化サイト・エコサイトの再設定を行っています。現在、62 か所を佐渡ジオパークの見どころとし、保護・保全と活用に努めています。

● 保護・保全

ジオパークのサイトを後世に継承するため 2023 年 4 月に「ジオサイト保護保管理計画」を改定し、保全に努めています。看板についても 2020 年 3 月に「看板の分類や役割に関するガイドライン」を作成し、その分類や役割を定め、法令に従い景観に配慮した整備を進めてきました。

また、地質物品販売については、実態調査とジオパークの理念の周知を行い、販売業者に一定の理解を得ることができ、その価値を地域に伝える活動へとつなげています。



地域の価値ある資源に
ついて伝える地域説明

● 調査・研究の推進

国、県、関係機関や地元団体と連携し、サイトの現状や新たな情報の収集に努め、保護保全活動に活用しています。佐渡市の「大学と地域が連携した地域づくり応援事業補助事業（調査研究事業）」など、佐渡ジオパークの調査・研究を行う大学等のグループを支援し、学術データの蓄積を図っています。

また、一般市民に佐渡ジオパークを知ってもらうため、ジオパークフォーラムや講演会などを開催し、研究成果を発表する機会を設けています。

● サイトの維持管理

定期的にサイトの点検を行い、清掃、草刈り等を実施するとともに、安全に見学できるよう関係者との情報共有を密にしています。

また、整備が必要な場合は経過観察や記録を行い、来訪者が安全に楽しめるよう関係者と対応を協議しています。令和4年度から3年計画で矢島・経島遊歩道の落石防止工事を実施しているところです。

＜今後の課題＞

サイトの再設定を行い、佐渡ジオパークの見どころを整理しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域説明会をあまり開催できずにきました。今後は、サイトに関連する調査・研究に更に力を入れ、地域で大切にしている自然や文化、風習などとも結びつけながらサイトの価値を伝える地域説明会を積極的に行い、保護・保全の意識向上や郷土愛の醸成を図る必要があります。

② 学習・教育への活用

＜現状＞

● 地域におけるジオパーク学習

ジオパークガイドをはじめ、佐渡の他の観光ガイドや、有識者、世界文化遺産登録推進活動や世界農業遺産に関わる専門員などを講師に迎え、自然や歴史、文化をテーマとし、現地を巡る講座を実施しています。

2023年度からは、中学生・高校生を対象とした「SadoGeoClub」を開講し、佐渡の自然を実際に見て触れる体験を通して、その素晴らしさを肌で感じ、佐渡の魅力を改めて発見する活動を行っています。

また、身近な地質遺産の価値や、それに関連する動植物や歴史、文化などを説明することで、住民自らその価値に気づき、保護・保全の意識を醸成することを目的に地域説明会を開催しています。



佐渡の自然の豊かさを学ぶ
「SadoGeoClub」の子ども

- **学校教育の支援**

ジオパーク学習では、子どもたちが自然の中で実物を見て触れるという体験を最も大切にしています。講師を派遣するほか、授業等で活用する副読本を作成しジオパーク学習を進めています。このような教育活動は、島内の保育園から専門学校、島外の教育旅行対応まで多岐に渡っています。

また、学習成果は日本ジオパーク全国大会や新潟圏域ジオパークで開催する「子どもの交流事業」、ジオパークフォーラム等で発表しています。

- **防災教育**

学校や地域で防災教室を開催し、各地域の大地の特徴から想定される自然災害と身を守るための行動について伝えるとともに、自然災害と地域の人の暮らしとのつながりを伝えています。

近年の異常気象により地震や津波、大雨や土砂災害などの自然災害が頻発化しており、防災教育はジオパークの重要な活動となっています。

＜今後の課題＞

佐渡ジオパークの学校での教育活動に関しては、島内外から高い評価を受けている活動の一つです。今後は作成した副読本が活用されるような取組が必要と考えています。

地域での学習については、講座の参加者が特定されているため、SadoGeoClubの活動も含め、若い世代などにも関心を持ってもらえるような工夫が必要です。

また、地震や津波などの自然災害に対する関心が高まっており、有識者や専門機関と連携した防災教室を開催し、地域の防災力の向上に寄与していくことが必要です。

③ ジオツーリズムの推進

＜現状＞

- **ジオツーリズムの推進**

佐渡観光交流機構と連携し来訪者の満足度調査を行い、その調査結果をもとにジオツーリズムを検討しています。

また、多様な分野の専門員や有識者、地域の事業者等と連携し、自然景観や文化的な名所、動植物なども含めたジオツーリズムを推進しています。

- **モデルコースの設定**

モデルコースの見直しや新規設定、教育旅行の体験プログラムの検討のほか、佐渡の金銀山や世界農業遺産を含めた佐渡の自然、歴史、文化を感じることでできるツアーコースの開発等を進めています。

- **ガイドの養成**

佐渡島の魅力を、ジオパークの視点で来訪者に伝える佐渡ジオパークガイドを養成しています。来訪者の増加に対応するため、ガイド



「楽しく伝える」ための
スキルを学ぶガイド研修

養成講座の内容を見直し受講生を増やす工夫をしています。

認定（準認定）ガイドに対しては、ジオツーリズムに必要な知識やスキルを身に着けるための各種研修を行うほか、佐渡の様々な魅力を

伝え、来訪者に楽しんでもらえるよう他の観光ガイドとの合同研修も行っています。

● 拠点施設の整備

ジオパークに関連する情報が得られる施設としては「佐渡ジオパークセンター」「佐渡博物館」「きらりうむ佐渡」の3つの拠点施設があり、ジオツーリズムの推進を図り、来訪者の満足度を高められるよう展示を定期的に見直し変更しています。

佐渡博物館では、2階常設展のリニューアルを行い、佐渡の成り立ちがわかるものや「サダムカシツチクジラ」などの貴重な化石を展示するほか、動植物、歴史、文化のつながりが総合的に捉えることができるような展示をしています。

また、佐渡ジオパーク情報コーナーや観光案内所のほか、民間事業者からの協力によりジオパークコーナーを設置するなど、手軽に情報を得られる工夫をしています。

● 広報（情報）活動

佐渡ジオパークのストーリーをまとめた入門書「よくわかる佐渡ジオパーク」や、10エリアのパンフレットを1冊にまとめた「佐渡ジオパークガイドブック」を新たに発行し一般販売も行うなど、佐渡ジオパークの普及に努めるほか、パンフレットやマップ等の制作や、フォトキャンペーンを行い、佐渡ジオパークの魅力の周知を図っています。

また、佐渡ジオパークのストーリーをまとめたオリジナル映像の制作や「ぶら〜り ジオパークだっちゃ！」のテレビ放送など、佐渡ジオパークの多様な世代への浸透も図っています。

来訪者がジオパークに関する情報を得ることができるよう、佐渡ジオパーク公式ウェブサイトやInstagram、X（旧 Twitter）等のSNSでも発信し、ニーズに合わせた情報提供も心がけています。

● 交通アクセス

佐渡ジオパーク公式ウェブサイトにおいて、サイト（見どころ）の所在地、佐渡市内の旅客ターミナルのある全ての港からの自動車での移動時間、駐車スペースの有無及び最寄りのバス停留所の情報を提供しています。また、佐渡ジオパーク公式ウェブサイトにリンクさせているウェブ地図に、サイト（見どころ）の所在地を表示させていますので、利用者はそれを用いての経路案内を受けることができます。

● 安全対策

貴重な地質遺産について、法令で規制されている区域やマナーなどを佐渡ジオパーク公式ウェブサイトで周知しています。

<今後の課題>

佐渡ジオパークの魅力の発信や楽しんでもらえるツアーコースの開発、ガイドの育成を行っているものの、参加者からのアンケート結果を次の事業企画に生かし切れていないと考えます。充実したジオツーリズムを推進するため、各事業のモニタリングを行い、参加者から満足してもらえる活動を進める必要があります。

④ 持続可能な地域社会の実現

<現状>

● 新ビジネスの展開

佐渡ジオパークを多くの人々に知ってもらうため、協議会では多種多様なグッズを制作しています。特に近年は、佐渡の歴史や文化にまつわるものや、佐渡島の金山や世界農業遺産に関連した商品も制作し、佐渡ジオパークの取組を多くの人に知ってもらうきっかけとなっています。

● 地場産業の振興

2020年度に「佐渡ジオパーク食」の認定基準を設定し、佐渡の地質や地形、気象と深い関わりがあり、歴史的に受け継がれてきた「食材」「食品」を認定し、佐渡の食文化を地域振興につなげる取組を進めています。

お菓子やお弁当の開発など、民間事業者に取組が広がっています。

● 地域力の活用

サイトや遊歩道の整備、地元の地域資源を生かしたツアーの企画等を地域住民と協働で進め、地元の農産物をツアーの中で販売するなど、地域住民が主体となったボトムアップ型の活動に取り組んでいます。

また、ジオパークを知り活用してもらうことを目的に、地域説明会、公民館分館長会議、嘱託員会議、子ども会会議などで説明するほか、現地での解説等も行っています。



民間事業者が開発した
「佐渡ジオパークプレート」

<今後の課題>

佐渡ジオパークでは、ジオパーク活動が地域振興や地域の活性化につながることを目指して活動しています。しかし、ジオパークの理念や楽しさが地域住民に広く浸透していないことが課題です。地域にあるサイトの価値の理解を深め、地域住民のジオパーク活動への参画を促しながら、地域資源を活用していく必要があります。

⑤ 3つの取組の連携と戦略的な推進

<現状>

佐渡市が取り組む世界文化遺産候補(佐渡島の金山)と世界農業遺産(GIAHS)、それとジオパークの3つのプログラムに関わる専門員や関係者の連携が進み、ガイド同士のつながりも強くなってきました。

ジオパークガイドによる佐渡金山の宗太夫坑の案内や、3事業の見どころを巡るプレミアムツアーの実施など、3つのプログラムをつないで活用し、より一層佐渡島を魅力的に伝えています。



佐渡金山宗太夫坑を案内する
佐渡ジオパークガイド

＜今後の課題＞

佐渡島の金山が世界文化遺産に登録されることへの期待が高まっており、来訪者も増加傾向にあります。3つのプログラムに関わる専門員や関係者の連携は進んでいるものの、行政側が個別に推進しているものも多いと感じています。お互いに情報を共有し佐渡島の魅力を深め、観光振興に寄与できる活動を進めなければなりません。

⑥ ネットワークを活用した推進活動

＜現状＞

国内で行われる全国大会や研修会、ブロック会議、運営会議などに積極的に参加しています。

また、佐渡・糸魚川・苗場山麓の3地域が集まり「新潟圏域ジオパークガイド意見交換会」や「新潟圏域ジオパーク子どもの交流事業」として独自の交流会を開催するなど、盛んなネットワーク活動を展開しています。

「佐渡ジオパーク日本認定 10 周年記念事業」においては、一般の方々にご参加いただいたほか、全国のジオパーク関係者にご来訪いただくなど、佐渡ジオパークを知って楽しんでいただく機会となりました。



新潟圏域子どもの交流事業で活発にジオクイズに参加する子ども達

＜今後の課題＞

新潟圏域や中部ブロックを中心とした意見交換会や交流会を行っていますが、旅費や時間がかかり行動が制限されます。現地に赴くことを中心にしながら、オンラインを活用した事業も実施していく必要があります。

⑦ ジオパーク推進協議会の組織強化

＜現状＞

世界文化遺産や世界農業遺産の関係団体や、市の観光部署などが協議会の会員に加わり、組織の充実強化を図っています。各部会間でも会議録を共有するなど、連携した活動に取り組んでいます。

＜今後の課題＞

佐渡島特有の豊かな自然や伝統文化、各地域の風習や食文化などをつなげた事業を進めるため、協議会内の組織強化だけでなく関係機関や有識者から強い関わりを持ってもらう必要があります。



佐渡ジオパーク推進協議会総会開催の様子

第Ⅱ章 計画の方針と活動計画

1 基本的な方針

本計画では、第2次基本計画とは方針を変えて、次のことを基本方針とし、地域の方々や有識者、民間事業者と協働して進めていきます。

＜第2次基本計画の方針＞

- ① 科学的根拠に基づいていること
- ② 幅広い人が楽しめること
- ③ 自然環境と地域に配慮したものであること
- ④ 安全であること



「佐渡をまるごと学び楽しむことができる地域づくり」を目的とする

＜第3次基本計画の方針＞ 「楽しむ」「学ぶ」「守る」を3つの柱として取組む

① 地域に誇りと愛着をもち、持続可能な地域づくりを目指す

佐渡島の自然とそれに関連する動植物や歴史、文化の魅力を学び楽しみ、住民自らが地域に誇りと愛着をもち、地域資源を未来へ継承する地域づくりを目指します。

② 多くの人が学び楽しめる事業を推進する

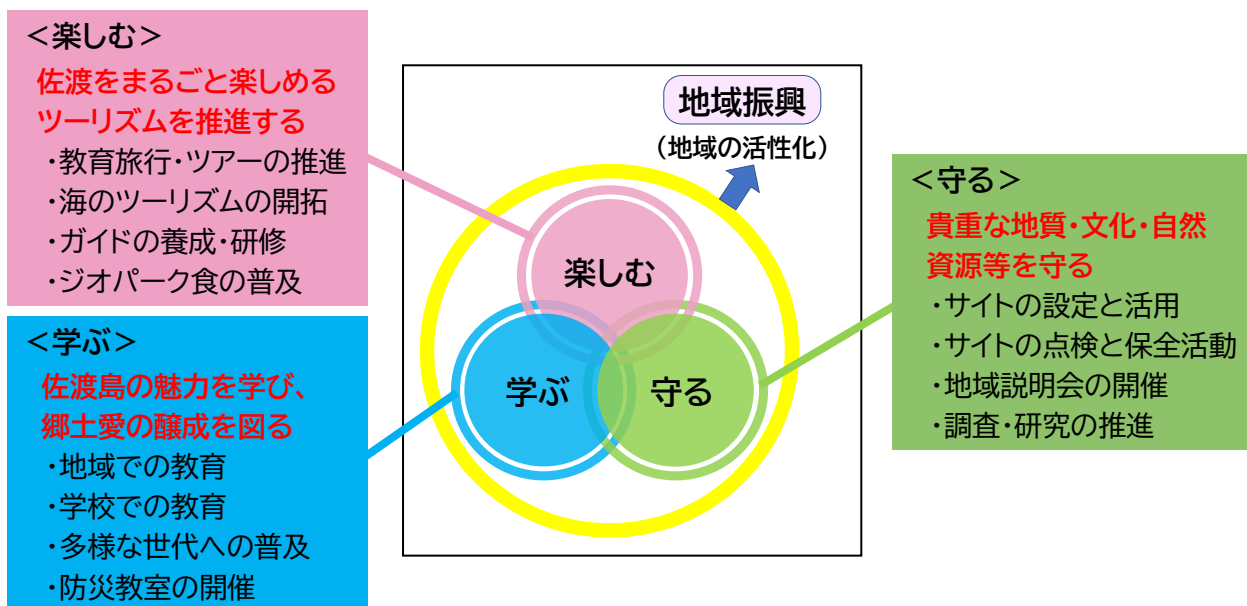
地域住民や来訪者が佐渡をまるごと学び楽しみながら巡ることができるよう、情報発信を工夫し、ジオツーリズムを推進します。

③ 自然環境に配慮した保全活動に取り組む

気候変動や自然災害、海洋ごみなどの自然環境の課題に配慮しながら、佐渡島の地質遺産を守る取組を進めます。

2 活動の3つの柱

「楽しむ」「学ぶ」「守る」を3つの柱とし「佐渡をまるごと学び楽しむことができる地域づくり」「佐渡らしさ」を重視した取組を推進します。



3 活動計画

今後、佐渡ジオパーク推進協議会は、以下の活動に取り組みます。

【3つの柱をもとにした取組】

(1) 楽しむ

地域住民や来訪者が佐渡島特有の魅力や面白さをまるごと楽しめるジオツーリズムを推進します。

① 教育旅行・ツアーの推進

佐渡観光交流機構をはじめ、観光関係事業者との連携を図り、佐渡特有の地質や自然と関連する歴史、文化等を活用した体験型の教育旅行向けのプログラムを造成し誘致を促します。

また、モニタリング結果に基づき、地形・地質、自然、文化を含む貴重なサイトや歴史的な見どころも組み込んだ、佐渡島をまるごと学び楽しめるツアーを開発・推進します。

② 海のツーリズムの開拓

新たに海底地形や海の生き物にも目を向け、海の中や海から見た島など、海を活用したツーリズムの推進を図ります。

③ ガイドの養成・研修

来訪者がより楽しく佐渡を巡っていただくために、ガイド養成講座を実施し、ジオパークガイドを増やしていきます。ガイドに対しては、ジオツーリズムに必要な知識やスキルを身に付け、ガイドの資質向上を図るため、各種研修を行います。

④ ジオパーク食の普及

地形・地質、気象や文化と関連が深い食を通して、佐渡の食文化を楽しめる「佐渡ジオパーク食」の取組を推進します。

(2) 学ぶ

体験学習や現地見学を通して、佐渡島の自然や動植物、歴史、文化等の魅力を学び、地域住民の郷土への理解を深め、郷土愛の醸成を図ります。

① 地域での教育

地域住民や各種団体への出前講座等を通して、地域にあるサイトの価値の理解を促すとともに、各地区公民館や子ども会活動でジオパークの現地を巡る学習を行います。

② 学校での教育

副読本の活用を通して、出前授業やクラブ活動（ジオクラブ）、教員への研修など、学校でジオパークの魅力を伝える教育活動を行います。

また、学習成果を発表する機会を設け、子どもの学びの定着を図ります。

③ 多様な世代への普及

子どもから高齢者までが佐渡をまるごと学ぶ機会を設け、生まれ育った地域にある資源の魅力に気づき、誇りに思う気持ちを育みます。

また、中学生・高校生を対象に「SadoGeoClub」を開講し、自然の豊かさを肌で感じる体験を通して、ジオパークの楽しさや魅力を伝え、郷土愛の醸成を図ります。

④ 防災教室の開催

学校や地域に積極的に出向き、各地域の地形や気象の特徴から想定される自然災害と身を守るための行動を伝え、防災力の向上に寄与するとともに、自然災害と地域の人の暮らしとの関係を伝えます。

(3) 守る

地域説明会による保全への理解促進と、調査・研究に基づく保全活動を実施し、貴重な地質・文化・自然資源等を守ります。

① サイトの設定と活用

サイト設定総合計画を見直し、地質遺産と自然・文化遺産とを関連付けたストーリーやコンテンツを整理しながらサイトの価値づけを行い活用していきます。

② サイトの点検と保全活動

サイトの状況は、ガイドや地域住民などの協力を得ながら定期的な点検を行い、必要に応じて清掃や整備等を行います。「ジオサイト保護管理計画」の改定を行い、サイトのき損状況によっては、関係者を含めた改善に向けた協議を行います。

③ 地域説明会の開催

地域説明会を各地で開催し、島の成り立ちや地域の貴重な地質遺産と、それに関連する動植物や歴史、文化を伝えることで、住民が地域の価値に気づき、誇りと保全の意識を持てるような取組を進めるとともに、地域住民のジオパーク活動への参画を促します。

④ 調査・研究の推進

国、県、関係機関や地元団体と連携し、多様な地質・地形、豊かな自然や生物に関する調査・研究を進め、学術的な裏付けや佐渡島の魅力を深める活動を行います。

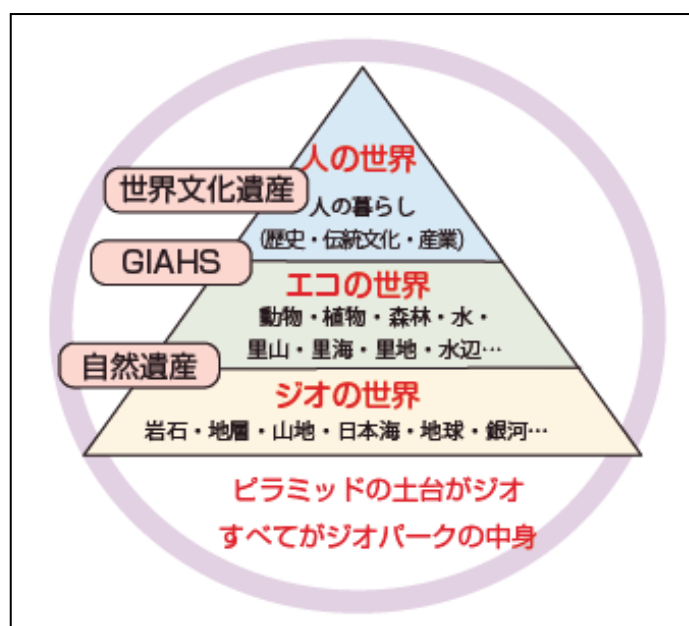
佐渡市による調査研究事業補助事業等を活用するとともに、ジオパークフォーラム等で研究成果の発表を行い、地域住民への理解促進を図ります。

【3つの柱に共通した取組】

(1) 世界文化遺産・世界農業遺産との関連事業の実施

- 佐渡市は「世界文化遺産候補（佐渡島の金山）」「世界農業遺産（GIAHS）」「ジオパーク」の3つのプログラムを推進しています。この3つは深く関連しており、そのつながりを知ることで、佐渡島の自然や動植物の多様性、文化や歴史の奥深さなどを感じることができます。地域住民や来訪者が島内のどこへ行っても3つのプログラムの結びつきを感じることができるよう関係者間で情報を共有し、可視性を高め、郷土愛の醸成を図るとともに、地域経済の活性化及び観光振興につながる戦略的な事業展開を進めます。
- モデルコース整備や看板類の設置には、景観や安全性を損なうことのないよう十分な配慮が必要です。特に関連する地域周辺では、市民や事業者、関係機関と意見調整を図りながら慎重に進めます。
- ジオパークガイドにおいても、大地と歴史や文化をつないだ案内ができるよう、他の観光ガイドと共に研修を行います。

3つのプログラムの関連図



(2) SDGs及びローカルSDGsの推進

国連サミットにおいて採択されたSDGsは、自然や文化等の地域資源を活用しながら持続可能な社会を実現するための目標であり、ジオパークの理念につながります。佐渡市が掲げるローカルSDGsもまた、ジオパークが目指す取組と重なります。

大地の変動によってもたらされた地質遺産を守り、SDGs及び佐渡市のローカルSDGsを推進し、気候変動や海洋ごみなどの自然環境の課題に配慮した取組を進めます。

持続可能な開発目標（SDGs）



(3) 多様な専門員や関係機関との連携

協議会が行う活動だけでなく、関係機関や有識者等と連携し、佐渡島全体にジオパーク活動の輪を広げていきます。

佐渡ジオパークの理念や活動の目的に賛同する事業者又は団体とパートナーとして、ジオパーク事業を実施します。

また、日本ジオパーク全国大会等の公式行事に参加するだけでなく、オンラインを活用した他のジオパークとの意見交換など、ネットワークを活用した取組を強化していきます。

(4) 戦略的な情報発信

各サイトの地質、自然、文化等の情報を現地で得られるように工夫した看板整備を行うとともに、ホームページやSNSを活用した佐渡ジオパークの紹介も積極的に行います。

拠点施設では、佐渡ジオパーク全体の見どころやストーリーがわかる情報発信や展示を行います。

また、佐渡をまるごと学び楽しめるパンフレット等の作成や、パネルやのぼり旗の掲示、オリジナルグッズや冊子の販売などを行うほか、観光資源や地域資源を活用し、関係機関と連携した国内外への戦略的な情報発信に取り組みます。

(5) 再認定審査への対応

今後実施される再認定審査に向けた取組は、別添アクションプランに基づき実施します。

アクションプランは、本計画の活動計画をもとに作成し、再認定審査ごとに与えられる課題への対応も盛り込むこととし、必要に応じて改正を行います。

第三章 運営組織

1 推進協議会

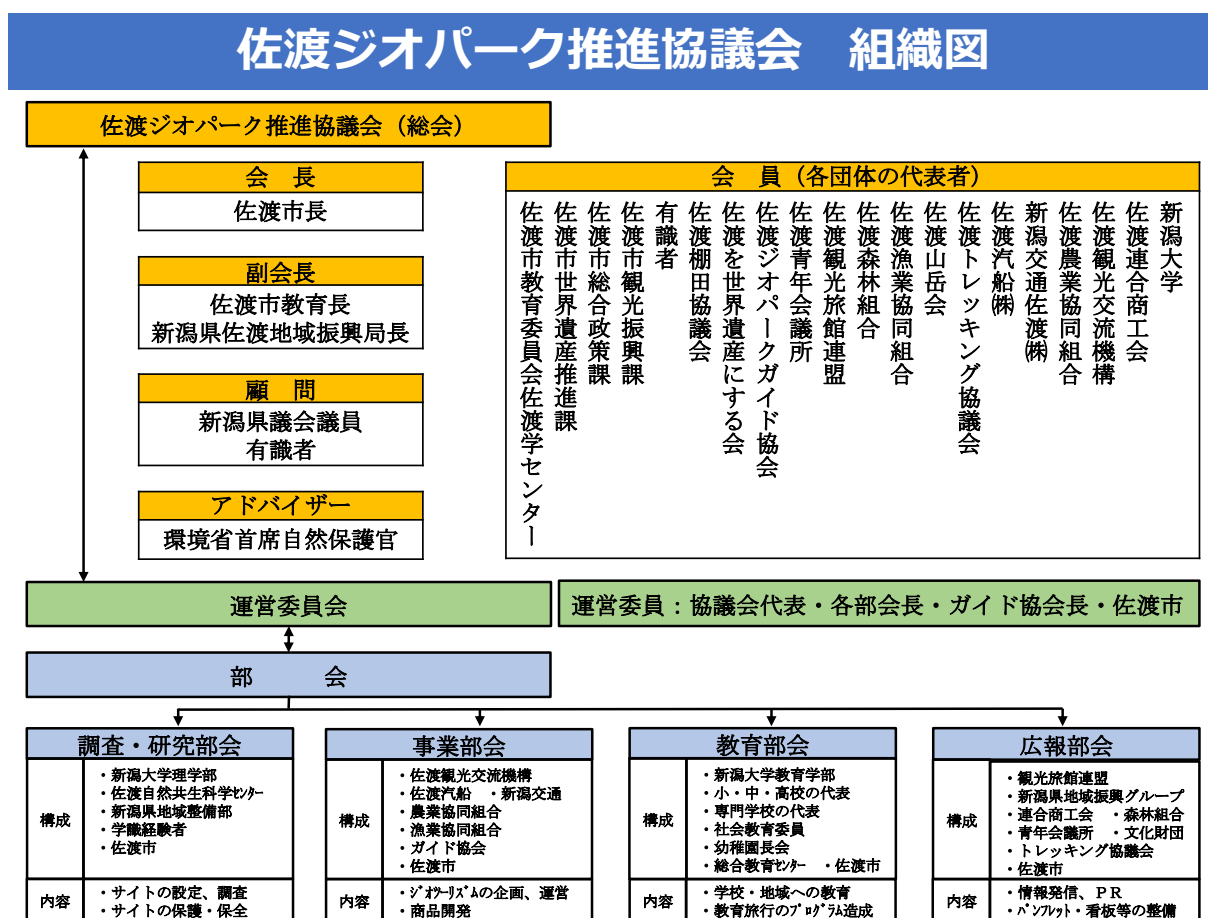
ジオパークの運営には、県、市、教育関係機関、事業者や住民が一体となった取組が必要であることから「佐渡ジオパーク推進協議会」を2011年5月に設立し活動しています。協議会は、佐渡ジオパークの推進母体として、世界ジオパークネットワークのガイドラインに沿って、市民の郷土愛の醸成と持続的な地域経済社会の発展に寄与することにより、世界的に評価されるジオパークづくりを進めています。

組織を円滑に進行させ、諸資料を整理・保存・活用するため、ジオパーク推進室に事務局を置き、協議会の活動をサポートしています。

2 運営委員会・部会

佐渡ジオパーク推進協議会の中に運営委員会及び部会（調査・研究、事業、教育、広報）を設けて、それぞれ専門的な視点で目標・計画を立て、実践・運用、点検・検証、見直し審議・対策（PDCAサイクル）を行い、ジオパーク事業の進行管理に努めます。

3 推進体制



第Ⅳ章 アクションプラン（実施計画）

佐渡ジオパーク基本計画に基づき、次の年次計画を定め活動を推進します。

ジオパーク推進アクションプラン（2024～2028）

（⇒：準備・検討 ☆：達成・完了）

| 区分 | 項 目 | 事業概要 | 指摘事項 | 活動指標 | 活動目標 及び 年次計画 | | | | | | 担当部会・関係者 |
|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------|------|-----------------|--------------|--------|-------|-------|-------|-------|------------------------|
| | | | | | 2022 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | |
| 全 体 | 総合的な活動指標 | ジオパーク事業に参加した人数 (市民講座、出前講座等の参加者人数) | | 人数 | 4,433 | 4,000 | 4,000 | 4,000 | 4,000 | 4,000 | 全部会 関係者 |
| | 事業のモニタリングの実施 | 各事業のPDCAの実施 | ⑤ | 部会での 事業検証 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | 財源の確保 | 佐渡ジオパーク推進に係る予算 | | 協議会当初 予算(千円) | 16,570 | 14,529 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | 人員体制 | 事務局人数(うち協議会雇用人数) | | 人数 | 10(2) | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | - |
| 楽 し む (佐渡をまるごと楽しめる ツーリズムを推進する) | 教育旅行・ツアーの推進 | ジオパークガイドによる案内 | | 案内人数 | 1,575 | 1,100 | 1,200 | 1,300 | 1,400 | 1,500 | 事 業 |
| | | 教育旅行の推進 (修学旅行、民泊の対応) | | 学校数 | 6 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 事業・教育 |
| | | 体験プログラム・モデルコースの開発 | | コース数 | 8 | 12 | 14 | 16 | 18 | 20 | 広 報 |
| | 海のツーリズムの開拓 | 海を楽しむ事業の実施 | ⑦ | 実施回数 | 未実施 | 3 | 3 | 4 | 4 | 5 | 事 業 |
| | ガイドの養成・研修 | ジオパークガイドの養成 | | 認定ガイド 人数 | 22 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 事 業 ガイド協会 |
| | | ガイド研修会の実施 | | 実施回数 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | |
| | ジオパーク食の普及 | ジオパーク食の普及事業 | | 実施回数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 事 業 事業者 |
| | | ジオパーク食に関する商品の開発 | | 認定商品数 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| 学 ぶ (佐渡島の魅力を学び、 郷土愛の醸成を図る) | 地域での教育 | 各種団体への出前講座の開催 | | 実施回数 | 52 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 教 育 ガイド |
| | | 市民講座の開催 | | 実施回数 | 19 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 市 |
| | 学校での教育 | 出前授業の実施 | | 実施回数 | 46 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 教 育 学校 ガイド |
| | | ジオクラブの実施 | | 実施校数 | 8 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | |
| | | 副読本の活用 | | 活用した 授業数 | 未実施 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | |
| | | 教員への研修会の開催 | | 開催回数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | 多様な世代への普及 | SadoGeoClubの開講 | | 参加人数 | 未実施 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 教 育 |
| 守 る (貴重な地質・文化・ 自然資源等を守る) | 防災教室の開催 | 防災教室の開催 | | 開催回数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 教 育 気象台 |
| | サイトの設定と活用 | サイト設定総合計画の改定 | | 事業年度 | 改定 | ☆ | | | | | 調査研究 市 大学 専門家 |
| | | 設定済みサイトの見直し | ① | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | ストーリーやコンテンツの整理 | ② | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ☆ | | | | |
| | サイトの点検と保全活動 | ジオサイト保護管理計画の改定 | | 事業年度 | 改定 | ☆ | | | | | 調査研究 市 地域 ガイド |
| | | 地元住民と協働した保全活動 | | 実施回数 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | | サイトの草刈り・ごみ拾い | | 実施回数 | 36 | 40 | 40 | 45 | 45 | 50 | |
| | | サイトの整備 | | 実施件数 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | サイトの点検 | | 実施回数 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | |
| | 地域説明会の開催 | 地域説明会の開催 | | 実施回数 | 5 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 調査研究 教 育 |
| | 調査・研究の推進 | ジオパークに関する調査・研究 | | 調査件数 | 7 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 調査研究 市 大学 専門家 |
| | | サイトに関する調査・研究論文の収集 | | 収集件数 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | 調査・研究への協力 | | 協力件数 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | | 調査・研究成果の発表 (ジオパークフォーラム等) | | 実施回数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |

ジオパーク推進アクションプラン（2024～2028）

（⇒：準備・検討 ☆：達成・完了）

| 区分 | 項 目 | 事業概要 | 指摘事項 | 活動指標 | 活動目標 及び 年次計画 | | | | | | 担当部会・関係者 |
|--------|------------------------|------------------|------|-----------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------------|
| | | | | | 2022 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | |
| 共通した取組 | 世界文化遺産・世界農業遺産との関連事業の実施 | 連携した事業の実施 | ⑧ | 実施回数 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 全部会 事業者 地域 |
| | | 観光ガイドの合同研修会の実施 | | 実施回数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | SDGs及びローカルSDGsの推進 | 気候変動に関する事業の実施 | | 実施回数 | 未実施 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | | 海洋ごみに関する事業の実施 | | 実施回数 | 未実施 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 多様な専門員や関係機関との連携 | 関係機関・有識者と連携した事業 | ⑥ | 実施回数 | 9 | 10 | 10 | 12 | 12 | 15 | |
| | | ジオパーク関連行事への参加 | | 参加回数 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | |
| | | 他ジオパークとの意見交換 | | 実施回数 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| | 戦略的な情報発信 | 看板の整備 | | 更新数 | 13 | 3 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | 広 報 事 業 市 施設管理者 |
| | | 既存看板の二次元コード内容見直し | ③ | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ☆ | | | | |
| | | 拠点施設の整備 | | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | 拠点施設等の展示替え | | 展示替数 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | |
| | | 周遊を意識した施設における可視性 | ④ | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ☆ | | | | |
| | | ホームページによる情報発信 | | 月間 閲覧数 | 15,514 | 15,600 | 15,700 | 15,800 | 15,900 | 16,000 | |
| | | Instagramによる情報発信 | | フォロワー数 | 312 | 800 | 850 | 900 | 950 | 1,000 | |
| | | XIによる情報発信 | | フォロワー数 | 248 | 650 | 700 | 750 | 800 | 850 | |
| | | 国外への情報発信 | | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | ⇒ | |
| | | パンフレットの刷新 | ③ | 事業年度 | ⇒ | ⇒ | ☆ | | | | |
| | | グッズ販売店舗数 | | 店舗数 | 23 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

佐渡ジオパーク推進協議会

（事務局）佐渡市教育委員会 社会教育課 ジオパーク推進室

〒952-8501 新潟県佐渡市両津湊198番地（佐渡島開発総合センター内）

TEL:0259-27-2162 FAX:0259-58-7357

E-mail:sado-geopark@city.sado.niigata.jp